

今年は九州南部が全国で最初に梅雨入りした。沖縄地方との逆転である。過去にも2回あったそうだ。梅雨は鬱陶しいので、遅れるのは歓迎するが一番でないのは何かしら寂しい。

雨繋がりて北部豪雨被災者への寄附金の記事が目に入った。沖縄県医師会は北部被災地に総額801万3千円の寄附金を送った。北部で勤務していた身として、改めて感謝したい。一日でも早い復興を願っている。

サイバーセキュリティは今後重要な課題となる。「オケの理論」はわかりやすい。一枚でも低い板があるとそこから水（情報）が漏れてしまう。どんなに高価な対策よりも一人ひとりのセキュリティ意識が重要であることを再認識した。

医療現場におけるカスハラの増加は頭痛の種類である。医療機関特有の「応召義務」と「患者第一主義」のためハラスメントが放置されがちな傾向にあるが、医療従事者が心身の負担に耐えられないのでは元も子もない。

講演では対応の心構えを「合理性」と「是々非々」と提言している。法的な理由や正当な根拠はあるのか？ミスがあったのか？現場においてはクレームには臆することなく、毅然とした態度で臨んで欲しい。

第229回沖縄県医師会臨時代議員会は高額療養費制度に対する質疑があった。医師会も当初「引き上げ撤回」の記者会見を準備していたが、政府が見送りを決定したため中止した。今後は国や日本医師会の動向を注視しながら、対応を検討していくことは望ましい。

新たな地域医療構想会議では秋田県と新潟県からの報告が切実である。

秋田県の人口減は極めて深刻で、かつての130万人から現在89万人台まで減少し、2040

年には70万人という。医療圏も8から3医療圏へ再編された。

従来の病院完結型から「地域完結型」への転換を進めているが、目標は「医療の縮小」ではなく「地域の存続を支える医療」の実現である。人口減をどう生ききるか？地域の特性を踏えた医療体制の構築を模索している。

新潟県の医師年齢構成は50代、60代が中心で10年後には大幅な医師数の減少が予測されている。令和3年には4つの病院が消滅するなど、地域医療の存続が危ぶまれている。若手医師の定着が喫緊で、新潟大学の医学部卒業生100名のうち、県内定着率は30%、70%が県外に流出している。これを改善するため、医師会、大学、行政の三位一体で1年生からの地域医療にexposureし、地域卒の拡大や初期臨床研修の魅力向上に注力している。

琉球大学病院 鈴木幹男新病院長へのインタビューは小生が同じ大学の同級生とのことで親しみを持って行った。

新病院の西普天間移転で新院長の課題、目標を伺った。県内唯一の特定機能病院として救命救急や重症系、手術部門といった基幹機能を強化し、多くの患者さんに質の高い医療を届けたいとの熱い決意が伝わってきた。

座右の銘は「千里の道も足下から」。誠実な先生に相応しい言葉である。

米国の野球殿堂入りを果たしたイチローが84年間破られることがなかったメジャーのシーズン最多安打記録262を塗り替えた時に語った言葉、「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道」。

新院長にも通底する。是非、大きなことを成し遂げて欲しい。

広報委員 久貝 忠男